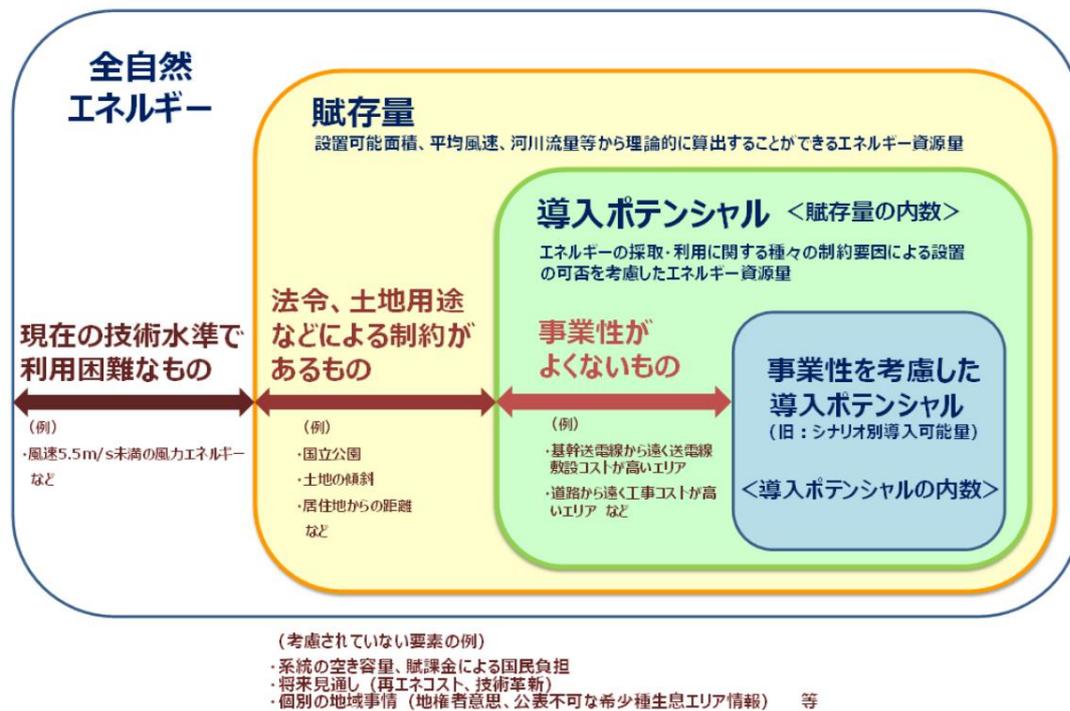


# 再生可能エネルギー賦存量・導入ポテンシャル

## (1) 賦存量・導入ポテンシャルとは

「賦存量」とは「全自然エネルギー」から現在の技術水準では利用困難なものを除いたエネルギーの大きさ、「導入ポテンシャル」とは、「賦存量」から、エネルギーの採取・利用に関する種々の制約要因（土地の傾斜、法規制、土地利用、居住地からの距離等）により利用できないものを除いたエネルギーの大きさ、と定義付けられています。

### ◆全自然エネルギー、賦存量、導入ポテンシャルの関係



出典：再生可能エネルギー情報提供システム【REPOS（リーポス）】（環境省）

## (2) REPOSによる導入ポテンシャル

環境省は2020年6月に、ウェブサイト「再生可能エネルギー情報提供システム」（以下、「REPOS」という。）を開設し、全国・地域別の再エネ導入ポテンシャル情報等を提供しています。

REPOSにおける、春日井市の再エネ種別導入ポテンシャルは、太陽光発電 980.7MW（1,350,156MWh/年）、風力 2.8MW（4,838MWh/年）、中小水力 0.035MW（108MWh/年）、太陽熱 1,050TJ、地中熱 9,771TJの導入ポテンシャルが見込まれています。

電気エネルギーでは、太陽光のポテンシャルが、熱エネルギーでは地中熱のポテンシャルが突出しています。

◆REPOS による再生可能エネルギー種別の賦存量及び導入ポテンシャル（電気）

再生可能エネルギーの種類		賦存量		導入ポテンシャル	
		(MW)	(MWh/年)	(MW)	(MWh/年)
太陽光	建物系	—	—	873.804	1,204,445.874
	土地系	—	—	106.902	145,710.229
	計	—	—	980.706	1,350,156.103
風力	陸上風力	18.600	32,179.316	2.800	4,838.410
中小水力	河川	—	—	0.035	108.375
	農業用水路	—	—	0.000	0.000
	計	—	—	0.035	108.375
地熱		0.000	—	0.000	0.000
合計		—	—	983.541	1,355,102.887

資料：自治体再エネ情報カルテ（環境省）

◆REPOS による再生可能エネルギー種別導入ポテンシャル（熱）

再生可能エネルギーの種類	導入ポテンシャル(TJ/年)
太陽熱	1,050.258121
地中熱	9,770.757859
合計	10,821.015980

資料：自治体再エネ情報カルテ（環境省）

※令和3年度再エネ導入ポテンシャルに係る情報活用及び提供方策検討等調査委託業務報告書では太陽光、太陽熱、地中熱に関する推計は意味をなさないため、推計対象としていない。

（3）公共施設を対象とした導入ポテンシャルの推計

市の公共施設を対象に、太陽光発電システムを導入した場合のポテンシャルの推計を行いました。その結果、27,688.8（MWh/年）の発電ポテンシャルがあると推定されました。なお、値には、既設の太陽光発電設備（本庁舎等25施設）を含みます。

施設名	延床面積(m <sup>2</sup> )	設置可能面積(m <sup>2</sup> )	年間発電電力量 (MWh/年)
本庁舎	43,891	10,095	1,134.9
支庁舎	9,884	3,262	366.7
消防署	7,859	2,593	291.6
公民館	9,176	7,524	845.9
体育館	25,780	13,921	1,565.0
その他の文化施設	76,462	24,468	2,750.7
保育園	29,654	13,641	1,533.5
小学校・中学校	339,819	146,122	16,427.0
その他の学校（調理場）	8,244	1,896	213.2
病院	60,869	10,348	1,163.3
老人福祉施設	15,439	2,625	295.1
宿泊施設 （ホテルプラザ勝川等）	12,686	1,269	142.6
商業施設（ルネック）	3,007	451	50.7
中規模共同住宅 （市営住宅等）	50,521	8,083	908.7
合計	693,290	246,297	27,688.8

※「令和元年度 再生可能エネルギーに関するソーニング基礎情報等の整備・公開等に関する委託業務 報告書」（令和2年3月,株式会社エックス都市研究所 アジア航測株式会社）と同様の手法を用いた。